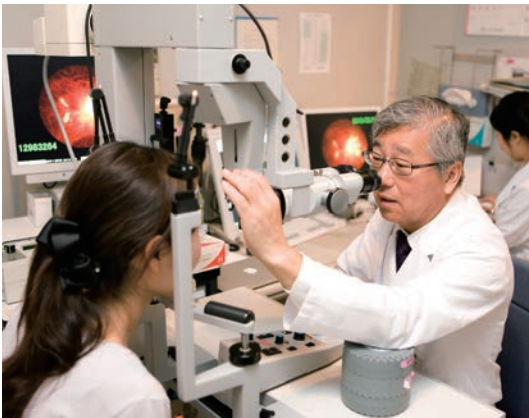


眼科

Department of Ophthalmology and Visual Sciences



眼科長
吉村 長久



最先端の診療で最良の視機能を

眼科疾患は非常に多様であり、最高水準の眼科医療を提供するに当たって、疾患すべてを網羅することは容易ではない。そうしたなかで当科では、豊富な症例数とともに、網膜硝子体疾患、緑内障を中心に最高水準の医療を提供していると自負している。これらの分野では最新の機器を積極的に導入し、正確な診断と効果的な治療の実践に力を入れている。その他、神経眼科や斜視、角膜炎、涙道などの専門外来を設置し、専門性の高い眼科医療を行っている。

特に力を入れている黄斑外来では、加齢黄斑変性に対する光線力学療法(PDT)や抗血管内皮増殖因子(VEGF)療法と遺伝的背景の関係を検討し、オーダーメイド医療をめざすなど、高度な先進的医療に取り組んでいる。

代表的診療対象疾患

白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、網膜色素変性、視神経炎、斜視、弱視、網膜静脈分枝閉塞症、高度近視、鼻涙管閉塞

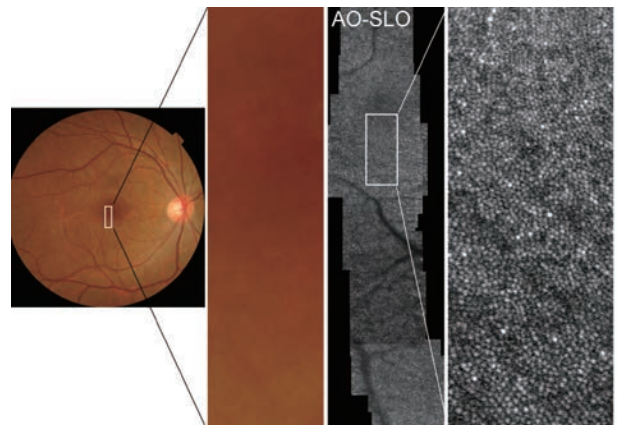
診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

一般眼科外来として午前中1診(初診)と2診(再診)を毎日行っている。専門外来は、緑内障外来、角膜外来、糖尿病網膜症外来、未熟児網膜症外来、斜視弱視外来、神経眼科外来、黄斑疾患外来、ぶどう膜炎外来、網膜循環疾患外来、網膜変性疾患外来、網膜電図外来、涙道外来と多岐にわたる。黄斑疾患治療センターでは、今後の増加が危惧される黄斑変性疾患を集約的に治療、研究している。2012年度の外来診療は新患総数3,463人、受診総数47,519人、新患率7.3%、患者紹介率74.3%であった。

入院診療体制と実績

病床数は49床、年間総入院延べ患者数15,282人、平均在院日数は8.04日、手術件数は1,358件であった。手術では、網膜硝子体疾患手術が全体の約4割弱を占めるのが特徴である。従来の光線力学的療法(PDT)に加えて抗VEGF薬の硝子体注射も施行している。



補償光学適用走査型レーザー検眼鏡(AO-SLO)による視細胞イメージング

臨床研究の取り組み

現在行っている治験

- ①脈絡膜新生血管を伴う病的近視(近視性CNV)患者に対するVEGF Trap-Eye硝子体内投与の有効性、安全性および認容性を、偽注射を対象として検討する多施設共同二重マスク無作為化第Ⅲ相試験
- ②糖尿病黄斑浮腫(DME)を有する日本人患者に対するVEGF Trap-Eye硝子体内反復投与の安全性および認容性を評価する第Ⅲ相非盲検試験

- ③網膜静脈分枝閉塞症(BRVO)に伴う黄斑浮腫を有する患者を対象としたVEGF Trap-Eyeの硝子体内投与(アフリベルセプト硝子体内投与[IAI])の有効性、安全性、および認容性を検討する二重マスク無作為化実薬対照試験(①～③バイエル薬品)
- ④UF-021の網膜色素変性症を対象とした第Ⅲ相臨床試験(比較試験期および継続投与期による評価)(アールテックウエノ)他1件